

<今日の説教のポイント 列王記上 19 章 1-18 節>

1 (1-4) あのエリヤが死を願う?! — 彼を絶望から生還させたもの。

イエス様が現れた時、イスラエルの人々はエリヤの再来と考えました (マタイ福音書 16:14)。エリヤはそう思われて当然の立派な信仰を持った人物でした。その彼がここに記されているように、絶望し、神様を避け、死を願った時があったのです。彼がそこからどのようにして生還できたのか、それをご一緒に追いたしたいと思います。

2 (5-8a) 絶望の中にある人間とは。彼に対して神様がなされたこと。

エリヤは敵から逃げ、従者からも離れ、神をも避けて一人になり、眠ってしまいます。絶望は人間を心身共に疲れ果てさせてしまうのです。ここで注目したいのは、神様はその彼に何も言わず、まずはただ食べ物と水を届け続けられただけだということです。この時のエリヤにとってそれはありがたいことだったでしょう。彼はそのような時を過ごす中で神様の語りかけに耳を傾けることができるまでに回復して行ったのです。神様は人間とはどういうものかをよく御存知なお方なのです。

3 (8b-12) 回復したら神に向かい、神に聞く。それはどこで聞ける?

「その食べ物に力づけられた彼」(8)が向かったのは、かつてモーセが神様と語り合った神の山ホレブでした。心身が回復した後、次に向かわなければならぬのは、我らを造り、生かし給う神様なのです。エリヤはそれをなし、改めて冷静に自分の状況と思いを神様に語ります。その神様の声を聞けるのは私たちが思うのとは異なるのだということも、この箇所から聞き取らなければならぬ大事なことです(11-12)。

4 (13-18) 思い込みの訂正と神様によって与えられる新しい使命。

エリヤが「もう自分一人だ」と思い込んだのは正しくありませんでした。彼と同じく真の神に忠誠を示す人々が 7 千人もいたからです(18)。また神様は彼に新しい使命を与えられました。それは訳の分からないように思える内容でしたが、エリヤが恐れた相手が滅びることにつながる大事な使命でした。大事なことは、自分で全てを決めつけないこと、そして御子イエス様を与えて下さった神様に聞いて生きることなのです。